

阿賀野川

aganogawa E-toko dayori

創刊準備号

2009.3.10

いのちの大河、阿賀野川。  
その恵みは、  
多様ないのちを育んできました。  
流域の人々の営みは、  
この川の変遷とともに  
振り返ることができます。  
かつて水運の時代には、  
重要な交易路として栄え、  
豊富な水は広く  
流域の田畠をうおし、  
清流で獲れるさまざまな魚介類は  
貴重な「ごつお」として昔から  
地域の人々に親しまれています。  
しかし阿賀野川がたどった歴史は、  
繁栄の軌跡ばかりではありません。  
昭和四十年には新潟水俣病発生の  
舞台となりました。  
長い歳月を経て遠い出来事のように  
思う人もいるかもしれません。  
被害に遭われた方々の  
苦しみや不安は、いまも  
変わることなく続いている。  
みんなが安心して  
心豊かに暮らしていくには  
どうしたらいののでしょうか？  
その答えを求めて、  
私たち阿賀野川流域の  
宝物探しの旅に出たいと思います。  
阿賀野川と言えば「え~とこだ」と  
誰もが口をそろえる、  
そんな平凡な一日を迎えるために。



草倉銅山の神社跡。奥の階段を上ると、「大山神社」と銘を打たれた碑が残っている

睦月橋から約四キロメートル、草倉道（林道）を進み、山道を登つた所に草倉銅山跡がある。現在では林道が整備され、車の行き来も可能である。当時、本山から角神精錬所までの険しい山道を、運搬人夫は荷物を背負つて往復していたという。本山入り口には、「草倉銅山本山跡」の看板。神社へ続く道を進むと、神社の手水所（石製）と祠がある。雑木林に目をとられつつ歩いていくと、ほどなく、開けた場所に出る。



苔むした手水石は神社への道しるべにも見える

## フィールドミュージアム 阿賀を旅する

## 草倉銅山跡

新潟水俣病の発生から二百年以上も昔。阿賀町鹿瀬地区の山中に、日本の近代化に大きく貢献した銅山が開かれました。阿賀野川の歴史にあつたもうひとつ日本の「光」と「影」の物語を訪ねました。



阿賀野川え~とこだプロジェクトでは、今回訪れた阿賀町鹿瀬地区・草倉銅山をテーマにした様々な企画を検討しています。資料の収集・整理を始め、紙芝居『草倉銅山物語』の製作、企画パネル展や写真展、「草倉談義」やツアーなど…。草倉銅山の歴史をひもときながら、人々の来し方行く末に思いをはせたいと考えています。



**阿賀野川データ**  
流域面積: 7710km<sup>2</sup>(全国8位)  
長さ: 210km(全国10位)  
年間流出量: 約129億m<sup>3</sup>(全国2位)

**龍藏寺**

〒959-4301 阿賀町向鹿瀬1834  
草倉銅山坑夫の墓所があります。毎年7月15日の「無縫仏供養祭」は坑夫や、洪水等で命を落とした無縫仏の供養がとり行われています。

## 阿賀野川流域フィールドミュージアム(FM)事業とは？

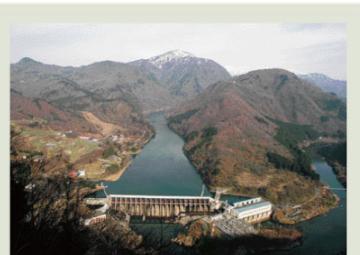
新潟県は、平成17年6月、新潟水俣病40年を契機に「ふるさとの環境づくり宣言」を発表し、平成20年9月には、「新潟水俣病地域福祉推進条例」を制定しました。それらには、ふるさとのかけがえのない自然を二度と汚さないことを第一の価値として、新潟水俣病の教訓を未来へ伝えるとともに、未だに苦しむ被害者の方々も含め、誰もが安心して暮らしていける地域社会の実現を目指すことが表明されています。

その新潟県の提唱のもと、FM事業は、平成19年11月に、県・流域市町やNPO法人、地元の方々からなる検討会（現・FM事業推進委員会）を結成してスタートしました。それは、阿賀野川流域全体を丸ごと野外博物館に見立て、流域に点在する様々な「阿賀野川の宝もん」（環境・文化・地域資源）を発見し、つなぎ合わせ、活用しながら、地域の力をさらに高めていくとする—そんな新しい地域づくりを目指しています。

そのためには、何事にも、地域をよく知る住民の皆さんから知恵をお貸していただき、地域をこよなく愛する住民の皆さんと共に力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。FM事業では、そうした流域の皆さんとの協働を通じて、かつて新潟水俣病という公害が発生し、今は自然豊かな魅力的な阿賀野川流域を、みんなでもう一度見つめ直す時間を共有し、そこから、流域だからこそ伝えることのできる「大切なもの」を、皆さんと共にいつか見出せたら素晴らしいなと考えています。

「阿賀野川え~とこだより」は、そんな流域住民の皆さんと私たち推進委をつなぐ定期的なお便りです。小さな刊行物ですが、豊かな関係を築きながら事業と共に大きく育てていくことができましたら幸いです。

小川弘幸（FM事業総合プロデューサー）



## 阿賀野川え~とこだ！憲章（事業理念）

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直しています。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

（阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会）

## あなたの「阿賀野川」教えてください！

阿賀野川流域に暮らす人々にとってかけがえのない宝物・阿賀野川。次の世代に伝え残したい財産として、阿賀野川の歴史え~とこ情報、キラリと光るお宝情報などお寄せください！あなたのとておきの阿賀野川ありませんか？古い写真や資料、昔話、隠れた名所・観光スポットなど、情報おまちしています。送り先は郵便またはEメールにて、下記の阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会事務局内「阿賀野川え~とこだ・お宝」係まで。

\*お送りいただいた情報はこの事業の推進に限定して活用させていただきます。

## ●新潟水俣病地域福祉推進条例説明会

同条例の4月施行に当たり、条例制定の趣旨等について理解を深めるため、流域市町で住民説明会を行います（各会場とも入場無料・参加申込み不要）。

- 新潟市 ●3/21(土) 10:00-11:00 津島屋会館
- 3/23(月) 10:00-11:00 豊栄地区公民館
- 3/23(月) 14:00-15:00 橋越地区公民館
- 3/24(火) 15:30-16:30 東区中地区公民館
- 3/25(水) 14:00-15:00 新潟市役所
- 3/26(木) 10:00-11:00 新潟市万代市民会館
- 3/26(木) 14:00-15:00 秋葉区新津健康センター
- 五泉市 ●3/24(火) 10:00-11:00 五泉市保健センター
- 阿賀野市 ●3/22(日) 10:00-11:00 分田農村環境改善センター
- 3/22(日) 13:30-14:30 安田公民館
- 阿賀町 ●3/24(火) 13:00-14:00 阿賀町公民館

詳しくは、生活衛生課 025-280-5207まで

## ●え~とこだブログ開設しました！

この事業の公式ブログが開設されました！紙面では紹介しきれない阿賀野川流域の魅力やこのプロジェクトの最新情報が掲載されています。ぜひご覧ください！



<http://www.aganogawa.info/>

阿賀野川え~とこだより 創刊準備号

発行:新潟県(2009年3月10日)

企画編集:阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会 〈事務局/〒950-1134 新潟市江南区天野2-13-1/2F〉

にーお！ なっとう！

TEL&FAX.025-280-7109 E-mail aganogawa@niigata.email.ne.jp

最初に鉱脈が発見されたといわれる三角沢へは、三角橋という小さな橋を渡る。その先に坑道の入り口が見える。

しかし、当時の繁栄を偲ばせる痕跡となるとあまりにも少ない。かつて隆盛を誇り、六千余名の人たちが集落を形成し暮らしていたというが、産業や文化、生活の匂いが著しく乏しい。製錬所もしくは病院の跡

ではないかと推察される石垣が現存するのみである。

「兵(つわもの)どもが夢の跡」

そんな言葉を連想させる場所である。

「草倉銅山本山跡には“無”という静寂が漂っていた。

すべては時間に飲み込まれ、松と紅葉と風の中に散在する無残にも倒れた多くの墓石。

これら死者は、訪れる縁者もなく、ただ静かに紅葉が散るなかで眠っている。

繁栄を極めた草倉銅山は、私たちに何を残したのか。静寂の中に立つ想像を膨らますと、山は驚くほど雄弁に語りかけてきた。



力強く流れる三角沢の水

## 繁栄のあととの静寂、光と影が織り成す歴史の重み



樹木と土に囲まれても、ここだけ人の手がはいったと明らかにわかる石垣。往時の人のたくましさを思う



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)

草倉銅山は維新後、明治政府が接收・支配した。経営は津川の資産家・平田治八郎に引き継がれるが、明治八(一八七五)年八月八日日に、後の鉱山王・古河市兵衛が經營権を取得し、採掘に乗り出した。市兵衛は草倉銅山の収益を元手に、明治十一年尾銅山を買収した。明治十五年には草倉銅山角神製錬所を建設する。本山製錬所の機能を阿賀野川沿岸の角神に移したこと、鉱石運搬の利便を図り、それが増産へと導いた。学校・病院・郵便局・派出所もあり、最盛期には坑夫と職員、その家族や鉱山関係者を含め約六千名の牛乳を飲んだり、郡内で電話が一番に入るなど、当時としてはかなり先进单位としていた。

キノコ汁の中の白シメジはウチの父ちゃんが今朝採ってきたんですね

先輩たちに郷土食を教えてもらっているところ。コンニャクに付けるタレ作りで徹夜しました

この辺は新鮮な魚が少ないんで、身欠きニシンを使った料理が貴重なタンパク源でしたね

むかご拾いは昔子どもの仕事でしたよ

が伝えている。坑夫たちは落盤事故や職業病ともいえる鉱塵・珪肺(こうじん・けいはい)などの危険にさらされ短命であった。加えて、閉山による失職や不安定な雇用、そういうふたつの生活を救済するために、「友子同盟」を組織した。その紹は強く、親分は子分の子分は親分のために誠心誠意を尽くし面倒を見た。どちらかが亡くなつた場合でも墓を建て供養して残つている。

舞台となるが、実は草倉にも鉱毒事件の譲り受けたことを当時の新聞報道があつたことを、毎年七月十五日には無縁仏供養祭がしめやかに営まれる。



左から身欠ニシンと大根・人参の難漬け、むかごご飯、自然薯の磯辺揚げ、手作りコンニャク



鹿瀬のお母さんたちの  
おいしい、うれしい、  
幸せなおもてなし。



阿賀町生活改善推進委員会鹿瀬地区のみなさん。左から村岡智子さん、長澤優子さん、波田和子さん、小庄司八重子さん。ゆずり葉センター(鹿瀬集会所)にて。ごちそうさまでした!(2008.11.8)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の坑道入り口は、半分土で埋もれかけていた(下)



当時の絵はがき、川舟が待機している



建物が建っていた跡という土地では、礫石も見つっている(右)。三角沢奥の